

## データサイエンス研修受講感想レポート

2021 年度 7 月受講生 N.Y.さん (IT サービス会社)

「データサイエンス」と聞いたとき、私は自分とは縁遠い分野であると感じていました。実際にデータサイエンスとは統計学や機械学習など様々な領域の手法を用い有意義なデータを引き出すための研究分野で、それらを扱う方々はデータサイエンティストと呼ばれています。実際に大学時代にもデータサイエンスについて学ぶ機会があり、あまり覚えていませんが統計学を中心に学んでいた記憶があります。また研究分野とあるように、数学者や統計学者、機械学習等の研究者などが行っている分野で、それらに対し知識のない人々が扱う分野ではないと思っていました。

しかし、今回のデータサイエンス研修で使用したテキストには、『データサイエンティストのような専門家だけではなく、一般のビジネスユーザーがデータを活用する「データの民主化」の動きが活発になっています。』と書かれていました。2012 年に DataRobot が登場し、今までは高度なスキルを持ったデータサイエンティストしかできないといわれていた機械学習の取り組みを自動化することができるようになり、データサイエンスを民主化しました。これらの動きにより、老舗といわれる企業でもデータ分析に関する専門部署などを置くようになったそうです。

このようにデータ分析を自動化することでデータサイエンティスト以外でもデータを活用できるようになりましたが、実際にビジネスで用いるにはデータ分析に関する知識は必要であると感じました。やはりデータを扱うため従来のデータサイエンティストと同じように統計学や機械学習などの知識を理解していないとより良いデータ分析はできないと思いました。実際に私はそれらに対する知識が全くないので用語や分析手法等、今何をやっているのかなどがわかりませんでした。やろうと思えばだれでもできるのかもしれませんが、当たり前ですが、データサイエンスに関する知識がないとできないことだと改めて感じました。

今回の研修では統計学や機械学習、ツールなどについて学ぶことが多く、一回テキストを読んだだけではわからないことだらけだったので備忘録を見返しながらしっかり復習を行いたいです。

今回の研修内容で一番印象的だったことはデータサイエンティストに求められる人物像についてです。求められる人物像では、探求心がある、想像力がある、地道な努力ができるなどがあげられていました。データサイエンティストの仕事は地道な作業の連続で、根気強さが求められたり、試行錯誤をとまなうため、作業も多いのでこれらの能力は大切ですが、私たちが働くうえでも大切にしなければならないことだと思いました。分野は違いますが働くうえで会社や社会に貢献するためには日々努力や勉強が必要です。また壁にぶつかった際には根気強さで乗り越えなければならないと思います。各分野で求められる知識は違うかもしれませんが、どの分野でも活躍する人物というのは共通していると思いました。